

NO. 312 市町村総合計画の策定過程における参加のデザインに関する研究

—テキストマイニングによるまちづくりワークショップの分析—

川野研究室（建築・住居） A20AB021 小澤那奈美

1. 序章

1-1 研究背景

近年、地域住民の抱く都市像も複雑化・多様化しており、未来における都市のヴィジョンを構築することが難しい状況である。こうした中で、都市計画においては、ソフト面での展開が重視されている。各自治体においては、住民が思う“あるべき姿”を模索する動きが活発化している。こうした動きとして、まちづくりワークショップ（以降、まちづくりWSとする）の展開がみられる。

1-2 研究目的・方法

本研究では、行政が公表する「まちづくりワークショップ」の報告書を対象として、自然言語処理技術により文書に対し統計学的な処理を行うテキストマイニングにより分析を実施する（図2）。将来の都市計画策定に資する施策展開に向けた地域の方向性を、まちづくりWS結果の視覚化により明らかにすることを研究目的とする。

1-3 研究の位置づけ

まちづくりは図3に示すように変化しているとされる。都市マスタープランの策定に向けて、まちづくりWSを用いることは、住民同士、行政と住民等の意見交換の場として有効であり、まちづくりWSには地域のステイクホルダーが多く参加する。既往研究では、錦澤ら(1997)が、都市マスタープラン策定における計画枠組みづくりへの住民参加方法論としてWSに着目している¹⁾。一方で西原(2019)によれば「マスタープランが市民の間で共有されていない²⁾」とする指摘もみられる。そこで本研究ではテキストマイニングによりまちづくりWSの定量的な分析を図る。

2. まちづくりワークショップの展開

まちづくりWSとは、地域の住民が参加し、その地域の問題点や将来について意見を出し合い、どのようなまちづくりを行っていくかを考える活動である。1992年に都市計画法改正により、地域の特性を踏まえ、市民の意見を反映した都市づくりヴィジョンや、地域別のあるべき市街地像、地域別の整備方針などを定めることが求められている。

3. 愛知県内における事例とテキストマイニングの結果

3-1 愛知県内におけるまちづくりWSの状況

愛知県内におけるまちづくりWSについて、実施状況の現状把握を目指し、各自治体における公開状況をもとに実施の有無及び、ワークショップ名を表に整理した。人口規模上位の主な実施状況を表1に示す。

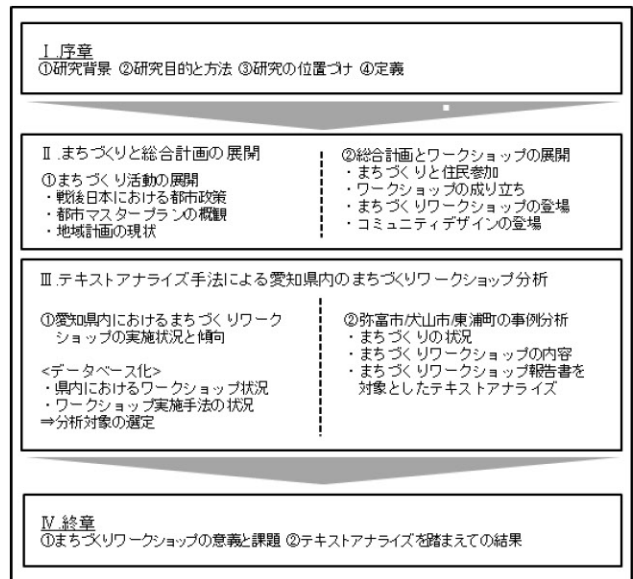


図1 研究フローと研究方法

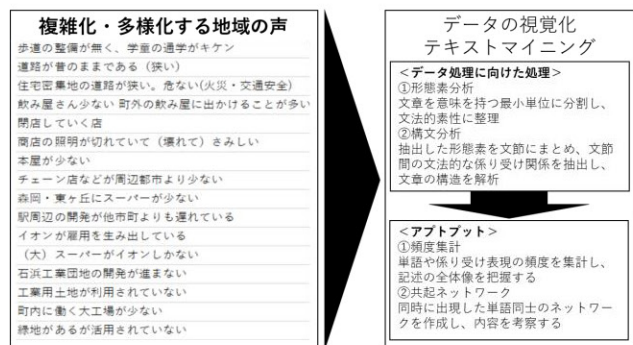


図2 テキストマイニングの方法

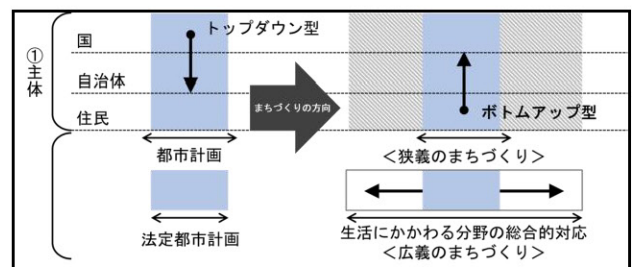


図3 まちづくりの変化（内海(2010)をもとに作成³⁾）

表1 愛知県内におけるまちづくりワークショップ

No.	都市名	実施年	WS名
1	名古屋市	2022	なごや未来創造ワークショップ
2	岡崎市	2016	まちづくりワークショップ
3	一宮市	2015	まちづくりワークショップ
4	刈谷市	2019	かりや未来ワークショップ
5	小牧市	2021	中心市街地まちづくりワークショップ

（各自治体による公表資料をもとに作成）

3-2 テキストマイニングによる分析

本研究では、まちづくりWSの視覚化を目標として、弥富市・犬山市・東浦町を対象とした分析を行った。いずれの自治体も名古屋市のベッドタウンとしての側面を有しているが、高齢化率は異なる。分析に向けて、各自治体によって公開されるワークショップの報告書を形態素分析し、さらに共起ネットワークの作成を図った。ここでは連続する単語を各頂点として、語句を結びつけることで単語の関係性をネットワークとして表現している。

4. 終章

まちづくりWSの報告書をもとにした抽出語および共起ネットワークから、地域特性を読み解くことができたと考えられる。特に3市における抽出語は地域ごとに特徴が大きく異なることが明らかになった(表3)。

共起ネットワーク(図4)からは、弥富市のまちづくりWSでは公共施設や安全・安心、情報発信など幅広い語のネットワークがみられた。この特性として地域における住民ニーズが多様であることが考えられる。次に犬山市のまちづくりWSでは、「ボランティア」「町」「助け合う」など、地域コミュニティに対する傾向がみられる。東浦町では、「工場」「工業」「商業」「施設」「空き家」など産業活性化に向けた用語がネットワークを形成しており、産業活性化への視点が強調されている。

いずれの都市においても、定量化・視覚化を図ることで今後の都市計画策定に向けた一助となる結果が示されたと考えられる。今回の研究成果を踏まえ、今後はさらに多くの自治体やWSを対象に研究を進めることが求められる。また、住民意見を地域の特色に活かした都市計画を実現するために、まちづくりWSの実践的な提言やモデルの構築にも取り組むことが期待される。

表2 対象事例の概要

	弥富市	犬山市	東浦町
人口(2020年)	44,308人	73,090人	50,140人
1980年比人口	121.5%	114.7%	139.1%
高齢化率	26.2%	29.3%	25.9%
対象としたまちづくりWS	市民ワークショップ「弥富・みらい創造」	地区別タウンミーティング	東浦町まちづくりワークショップ
まちづくりWS実施期間	2022年10月～2022年12月	2021年10月～2021年11月	2017年10月～2018年1月
実施回数	4回	5回(地区ごと)	6回

表3 3市における抽出語(上位15語)

順	弥富市		犬山市		東浦町	
	抽出語	出現数	抽出語	出現数	抽出語	出現数
1	少ない	19	子ども	77	少ない	19
2	ゴミ	15	町	76	道路	19
3	市民	14	人	63	多い	15
4	避難	14	地域	46	工場	14
5	人	13	地区	44	空き家	13
6	整備	13	良い	43	利用	12
7	知る	13	高齢	42	活用	11
8	高齢	12	整備	34	狭い	11
9	スポーツ	11	声	34	住宅	11
10	バス	11	犬山	33	町	11
11	確保	11	道路	33	農業	11
12	公園	11	活動	30	イオン	10
13	参加	11	あいさつ	27	公園	10
14	施設	11	施設	25	施設	10
15	場所	11	場所	25	商業	10

[参考文献]

- 1) 綿澤滋雄, 吉村輝彦, 原科幸彦(1987)『都市計画マスタープラン策定におけるまちづくりワークショップの現状分析: 鎌倉市を事例として』『都市計画論文集』, 32(0), pp. 253-258.
- 2) 西原純(2019)『ある郊外町の都市計画マスタープランの策定とまちづくり』『都市地理学』14, pp. 115-128.
- 3) 内海麻利(2010)『まちづくり条例の対象とその変遷』『まちづくり条例の実態と理論: 都市計画法制の補完から自治の手だてへ』第一法規, pp. 23-40.

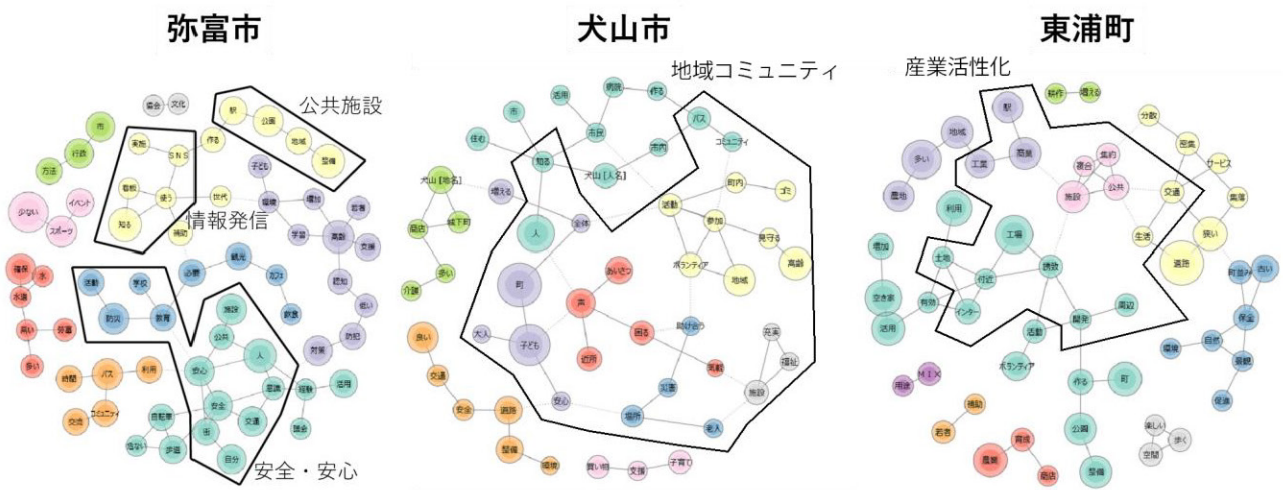


図4 まちづくりワークショップの共起ネットワーク
(弥富市・犬山市・東浦町公開資料をもとに作成)